

■英国：飛行機利用のレーザー照射による配電設備の調査を実施

2015年10月7日の記事によると、航空写真会社のBluesky社による配電設備の調査が完了した。調査は、固定翼機から地上にレーザーが照射され、その反射波によって配電設備と樹木との離隔を正確に解析するもので、配電会社のUK Power Networks社の所有する東部・東南部の架空線3万4,000kmにおいて、農業・環境コンサルタント会社のADAS社との協力のもと調査が行われた。UK Power Networks社はこの情報をパソコンのマップ上に取り込み、バーチャルの巡視が可能となる。この調査結果は、同社の3カ年伐採プログラムに用いられ、樹木起因の停電を防止するとともに、徒歩による巡視に伴う従業員のリスクの減少と時間短縮が可能であるとしている。